

参考資料 1

白川・緑川水防災意識社会再構築協議会取組工程表

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】概ね5年間で実施する取組内容の確認

		作業項目		白川	緑川	次期5年での対応(案)	
重点取組	広域避難	広域避難を考慮したハザードマップ等の検討 → 多様な避難方法による確実な避難の実施				継続・拡充	ハザードマップを活用した避難訓練、ハザードマップ説明会による普及、自主防災組織の強化、防災人材の育成等も含んだ取組推進
	防災教育	白川・緑川の素材を活かした防災教育の推進 → 白川・緑川の素材を活かした防災教育のさらなる拡充				継続・拡充	新指導要領に沿った小3、小4社会における防災教育の取り扱い、小5理科・社会における河川災害に対する防災教育の実施
	情報共有	防災情報の共有に資する関係機関の情報一元化 → 防災情報の共有の拡充				継続・拡充	水害リスクラインなどR3以降の新たな防災情報や追加機関（JR九州や九州電力等）も含めた情報共有の実施
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築						
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施						
		実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○	継続		継続した取り組みが必要 モデル自治体（1自治体）を選定し、公共交通機関、ライフライン機関等を含む多機関連携型の水害対応タイムラインの検討
		水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○	継続		〃
		防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○	継続		〃
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底						
		想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図等の検討及び公表	○	○	継続		浸想図の3D表示、中小河川の氾濫推定図の作成（熊本県）
		想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	○	○	継続		中小河川の氾濫推定図の検討を受けたHM更新 継続した取り組みが必要
		ハザードマップの普及・啓発	○	○	継続		啓発の継続が必要
		地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○	継続		継続した取り組みが必要
		水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○	継続		〃
		想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	○	○	継続		ハザードマップ作成時の検討を踏まえ、広域避難の観点で継続
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化						
		水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○	継続		継続した取り組みが必要
		自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施及び避難訓練の実施	○	○	継続・新規		継続した取り組みと住民の避難訓練の実施が必要
		水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○	継続		継続した取り組みが必要
		水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○	継続		〃
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施						
		排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○	継続		継続した取り組みが必要
		緊急排水計画の策定	○	○	継続		〃
		大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○	継続		〃
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化						
		自治体の防災担当者間の連携促進		○	継続		継続した取り組みが必要
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討						
		大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○	○	継続		継続した取り組みが必要
		早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○		継続		〃
		地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○		継続		〃
		要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○	継続		〃
		大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○	継続		〃
		避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○	継続		〃
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進							
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充							
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○	継続		〃	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○		継続		〃	
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育							
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	○		継続		継続した取り組みが必要	
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	○	○	継続		〃	
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○	継続		〃	
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○	継続		〃	
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○	継続		〃	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確実な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信							
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化							
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○	継続		〃	
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○	継続		〃	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化							
	多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報入手できる手段の検討・実施	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○	継続		出水時のプッシュ型配信が運用されているが周知・普及が必要	
	地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	○	○	継続		整備した情報ツールの運用・普及が必要	
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○	継続		〃	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施							
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○	継続		〃	
	出水時の河川巡視情報等の共有	○	○	継続		〃	
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備						
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置						
		過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○	継続		継続した取り組みが必要
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充						
		防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○	継続		継続した取り組みが必要
	3-⑤迅速かつ確実な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定						
		備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○	継続		継続した取り組みが必要
	3-①降雨状況の監視の強化						
		河川カメラ、水位計等の設置	○	○	継続		継続した取り組みが必要
	3-②河川水位の危険度レベルの標識の設置・拡充						
	河川水位危険度レベル標識の橋梁への設置	○	○	継続		継続した取り組みが必要	
洪水氾濫を未然に防ぐ対策							
	河川激甚災害対策特別緊急事業等による出水被害箇所の整備	○		終了		激特事業完了のため	
	白川の河川改修事業の推進	○		継続		継続した取り組みが必要	
	洪水被害の防止又は軽減を図るための立野ダムの建設	○		継続		〃	
	緑川・浜戸川高潮対策事業		○	継続		〃	
	緑川の河川改修事業の推進		○	継続		〃	
危機管理型ハード対策							
	堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強等		○	継続		継続した取り組みが必要	
新規対策（案）	流域治水プロジェクト（ソフト対策）の連携		○	○	新規	本協議会でのソフト対策の取組みが、流域治水プロジェクト（ソフト対策）の取組みと連携していく必要があるため	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇土市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		目標達成期限												更新済		
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考
				29年度		30年度		31年度		32年度		33年度				
幹事会 (○)				○		○										
協議会 (◎)						◎										
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○													
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○													
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○													
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎													
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成		◎													
	ハザードマップの普及・啓発															
	地域版ハザードマップの普及・啓発															
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎													
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○													
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○													
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○													
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○													
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○													
	緊急排水計画の策定															
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○													
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進		○													
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○													
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○													
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進															
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎													
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施		○													
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○													
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施		○													
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業等の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進		○													
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○													
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○													
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○													
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○													
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○													
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎													
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○													
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○													
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○													
	出水時の河川巡視情報等の共有															
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○													
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○													
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○													

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇城市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		目標達成期限												令和3年1月21日更新		
作業項目		白川	緑川	8月 29年度		4月 8月 30年度		4月 8月 31年度		4月 8月 32年度		4月 8月 33年度		備考		
幹事会 (○)				○		○										
協議会 (◎)					◎											
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築															
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○													(継続的に実施)	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○														
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○														
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎														L2対応のハザードマップの作成
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎														広域避難を考慮した水防避難マニュアルの検討・作成
	ハザードマップの普及・啓発															L2対応のハザードマップの普及・啓発
	地域版ハザードマップの普及・啓発															地域版ハザードマップの普及・啓発
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発															広域避難マニュアルの普及・啓発
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎														L2対応の避難所検討、L2対応の避難所指定
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○														(継続的に実施)
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○														(継続的に実施)
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○														(継続的に実施)
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○														(継続的に実施)
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○														排水施設の情報共有手法の検討
	緊急排水計画の策定															緊急排水計画を踏まえた課題に対する検討
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○														緊急排水訓練の実施
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進	○														各種会議を活用した連携強化
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															緊急防災道路等の検討	
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															緊急防災道路等の認定(調整)	
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															(継続的に実施)	
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															(継続的に実施)	
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														防災拠点施設としての機能向上の検討・実施	
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○														避難所となる小学校等の機能向上の検討・実施	
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○														出前講座の開催・拡充	
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○														啓発活動の実施・拡充	
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎														教育委員会等と連携	
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○														学習・水防教育の実施	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○														体験活動の推進と普及に向けた広域の実施	
防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○														防災ステーション設置検討、随時、流域自治体に拡大	
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○														検討・随時見直し	
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○														洪水対応演習を活用した訓練等の実施	
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○														継続実施(首長補佐間、課長間、担当等間)	
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○														情報伝達方法の検討・実施	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○														配信箇所は順次拡大予定	
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○														広報紙等へ防災情報の継続的な掲載	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎														一元的に集約した情報ツールの検討・実施	
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○														情報提供手法の検討・実施	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○														連絡体制の確認	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○														水防演習の実施	
出水時の河川巡視情報等の共有	○														一元化に集約した情報ツールを活用した情報共有の実施	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
3-④大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○														設置可能地域の抽出、設置、「まるごとまちごとハザードマップ」の実施	
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○														情報伝達状況の検証	
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○														備蓄状況の確認	
															備蓄計画の策定、必要資機材の整備	
															(継続的に実施)	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】御船町・減災に係る取組工程表全体スケジュール			目標達成期限												令和3年1月29日時点		更新済				
作業項目			8月		12月		4月		8月		12月		4月		8月		12月		33年度		備考
			29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		34年度		35年度		36年度				
幹事会 (○)			○		○		○														
協議会 (◎)			◎		◎		◎														
<ul style="list-style-type: none"> 白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築 																					
1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																					
実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し			○																		(継続的に実施)
水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施			○																		・関係機関との協議が必要。
防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施			○																		・関係機関等と協議の上実施する。 ・国・県等が実施する研修や訓練に参加する。
1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																					
想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成			◎		◎		◎														・平成30年度作成済み。
(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成			◎		◎		◎														・平成30年度作成済み。
ハザードマップの普及・啓発																					・平成30年度に全世帯配布済み。
地域版ハザードマップの普及・啓発																					・平成30年度作成のハザードマップを参考に、普及・啓発をおこなう。
水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発																					・関係機関と協議しながら検討する。
想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定			◎		◎		◎														・平成30年度作成済み。
1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																					
水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施			○		○		○														(継続的に実施)
自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施			○		○		○														・関係機関と協議し検討する。(令和2年度実施予定)
水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有			○		○		○														(継続的に実施)
水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施			○		○		○														(継続的に実施)
1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																					
排水施設の情報共有、排水手法等の検討			○		○		○														
緊急排水計画の策定			○		○		○														
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施			○		○		○														
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																					
自治体の防災担当者間の連携促進			○		○		○														・上益城地方災害対策会議及び上益城水防区連絡会等において情報を共有し連携を促進している。
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																					
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																					・熊本地震に係る復興計画による避難路の整備に併せ、出水時避難路の検討を行う。
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																					・企業向けのBCP研修会が必要と考える。
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																					(継続的に実施)
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																					(継続的に実施)
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施			○		○		○														・L2による浸水想定について、地下街等施設管理者へ勉強会が必要と考える。 ・地域防災計画に基づき、要配慮者の避難確保を検討し、計画を作成する。 ・作成した計画を基に各施設において、避難訓練の実施を促す。
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施			○		○		○														・防災センター機能を持った施設を検討している。 ・各避難所に「避難所キット(必需品)」の配備を検討している。
ソフト対策																					
<ul style="list-style-type: none"> 白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 																					
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																					
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充			○		○		○														・熊本河川国道事務所と連携を取りながら、出前講座の実施・拡充を図る。 ・熊本河川国道事務所において、教材等を用意し、学校授業等で活用できる旨の周知を行う。 ・広報誌等での周知。
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充			○		○		○														・水防災シンポジウム、川下り等で体験会
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充			○		○		○														
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																					
白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																					(継続的に実施)
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施			◎		◎		◎														・御船小学校、小坂小学校において実施。
市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施			○		○		○														・町主催の講座等は未定。 ・他主催の講座等の開催があれば、自主防災組織へ案内をする。
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及			○		○		○														(継続的に実施)
防災ステーションを活用した水防教育等の実施			○		○		○														(継続的に実施)
<ul style="list-style-type: none"> 水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 																					
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																					
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進			○		○		○														(継続的に実施)
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施			○		○		○														(継続的に実施)
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立			○		○		○														(継続的に実施)
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																					
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施			○		○		○														(配信箇所は順次拡大予定)
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知			○		○		○														・緊急速報メールを利用
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進			○		○		○														・広報誌への掲載を検討中。
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備			◎		◎		◎														・熊本県統合型防災情報システムなどの周知。
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施			○		○		○														・Lアラートを利用。
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																					
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認			○		○		○														(継続的に実施)
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施			○		○		○														(継続的に実施)
出水時の河川巡視情報等の共有			○		○		○														(継続的に実施)
ハード対策																					
関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																					
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																					
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置			○		○		○														設置可能な地域の抽出、設置、更新などについてハザードマップの実施
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																					
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討			○		○		○														防災無線の整備、基本設計・実施設計・施工
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																					
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定			○		○		○														現状の確認 種類の整理・価格調査等を行う (継続的に実施)

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】甲佐町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		目標達成期限												令和3年1月15日更新		
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考
幹事会 (○)				○		○										
協議会 (◎)					◎											
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○													（継続的に実施） ・詳細版のタイムラインの検討。
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○													（継続的に実施） ・関係機関等との勉強会や協議会が完成後、訓練の実施を検討。
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○													（継続的に実施） ・県主催の研修会などに積極的に参加。また防災担当職員以外の職員の防災力強化も必要と考える。
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成		◎													（継続的に実施） ・令和2年度刊行 ・広域避難の検討後に実施予定。
	ハザードマップの普及・啓発															（継続的に実施） ・地域でのL2対応のハザードマップ活用研修の他、チラシを配布などして危険箇所の認知を図る。
	地域版ハザードマップの普及・啓発															（継続的に実施） ・防災士と連携し実施。
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発															（継続的に実施） ・他市町との調整が必要
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎													（継続的に実施） ・引き続き検討
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○													（継続的に実施） ・緑川水防演習の実施。
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○													（継続的に実施） ・引き続き検討
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○													（継続的に実施） ・出水期前に消防団行事として開催。
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○													（継続的に実施） ・消防団員に勧誘強化を行うとともに、その他協力へも依頼。
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○													（継続的に実施） ・浸水常襲地区の情報共有。
	緊急排水計画の策定															
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○													
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進		○													（継続的に実施）
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															（継続的に実施） ・平成28年6月豪雨では、町の主要道路でもある国道443号線が浸水。
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															（継続的に実施） ・計画は全ての施設で作成済み、今後は避難訓練実施を啓発
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															（継続的に実施） ・引き続き検討
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													（継続的に実施） ・引き続き検討
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○													（継続的に実施） ・引き続き検討
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進															
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充															
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○													（継続的に実施） ・防災士と連携し実施
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○													（継続的に実施） ・緑川の歴史をテーマに町史歴史研修会を開催。
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育															
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進															
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施		◎													（継続的に実施） ・教育委員会部局と連携
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施		○													（継続的に実施） ・防災士と連携し実施
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○													（継続的に実施） ・教育委員会部局と連携
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施		○													
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業等の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信															
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化															
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進		○													（継続的に実施） ・出水期前に見直しを実施
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○													（継続的に実施） ・他団体と連携した訓練を出水期前に実施
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○													（継続的に実施） ・出水期前に連絡体制を確認
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化															
	多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○													（継続的に実施） ・SNSを活用した発信を引き続き実施
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○													（継続的に実施） ・令和2年度に新情報伝達システムを導入
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○													（継続的に実施） ・引き続き実施
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎													（継続的に実施）
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○													（継続的に実施） ・引き続き実施
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施															
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○													（継続的に実施） ・出水期前に連絡体制を確認
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○													（継続的に実施）
	出水時の河川巡視情報等の共有															（継続的に実施） ・引き続き実施
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜め・経済・人命への被害を最小化するための施設の整備															
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置															
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○													（継続的に実施） ・浸水の表示だけでは不安感を与えるだけの場合もあるため、避難場所を示す看板などの設置も検討
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充															
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○													（継続的に実施） ・引き続き出水期前に実施
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定															
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○													（継続的に実施） ・必要な資機材の他、適切な備蓄場所、空間を再検討

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】美里町・減災に係る取組工全体スケジュール		8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月												令和3年1月19日更新			
作業項目		白川	緑川	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標達成期限						備考		
幹事会 (○)				○	○				現時点								
協議会 (◎)					◎												
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し 水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施 防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○														・庁内協議の後、関係機関との協議が必要。 ・今後検討し、実施していく。 ・研修会へ向けた関係機関との調整と資料提供を要望。
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成 ハザードマップの普及・啓発 地域版ハザードマップの普及・啓発 水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発 想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	◎														・土砂災害警戒区域設定、ため池決壊想定地図等と一緒に表示したハザードマップの作成完了。R4更新予定。 ・関係機関との調整が必要である。近隣自治体と広域避難について協議中であるためその枠組みの中で協議したい。 ・ハザードマップの全戸配布完了・R2.1.15に町HPに掲載完了 ・各地区の自主防災組織等との連携が必要になる。自主防災組織の研修会を行った。 ・今後検討する。
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施 自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施 水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有 水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○														・熊本県防災訓練と併せて自主防災組織と町との連絡訓練を行った。 ・現在実施している国との共同点検に参加検討 ・H30年度備蓄倉庫整備後、検討していく。 ・水防団は消防団員が兼ねているが、消防団員の減少が急速である。
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討 緊急排水計画の策定 大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○														・担当の建設課と地区と協議のうえ、検討する。 ・担当の建設課と地区と協議のうえ、検討する。
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																
	自治体の防災担当者間の連携促進	○															
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定 早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援 地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援 大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施 避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																・整備に関する検討は必要だが、予算的ことが課題となる。 ・関係者と協議し、実施する。 ・但し、浸水想定区域に該当する施設はない。 ・但し、浸水想定区域に該当する施設はない。
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充 緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充 白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○														・連携は可能と考えられるが、講師の人財が課題となる。 ・実施可能であるが、活動の内容を検討する必要がある。
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進 教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施 市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施 住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及 防災ステーションを活用した水防教育等の実施	◎	○														・国土交通省からの説明を実施。R1.11.11に活用小において授業実施。R3.3学期に勸徳小学校で実施予定。 ・講師等の人財が課題となる。 ・関係機関と協議する必要がある。 ・防災ステーション設置の必要性検討
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業等の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進 毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施 市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○															
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																	
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施 携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知 地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進 関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備 報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○														・R3年度に情報伝達手段の複層化に関する整備計画に着手予定。 ・R3年度に情報伝達手段の複層化に関する整備計画に着手予定。 ・R3年度に情報伝達手段の複層化に関する整備計画に着手予定。 ・R3年度に情報伝達手段の複層化に関する整備計画に着手予定。 ・R3年度に情報伝達手段の複層化に関する整備計画に着手予定。	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																	
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認 毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施 出水時の河川監視情報等の共有	○	○														・関係機関と連携し、毎年、実施している。(緑川水防演習) ・関係機関と連携し、毎年、実施している。(緑川水防演習) ・水防団(消防団)と連携し行っている。	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																	
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置 過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置 3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充 防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討 3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定 備蓄している水防資機材について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○														・予算的な問題もあるので、今後検討し、設置したい。 ・防災行政無線については、戸別受信機も含めて、整備が終了しているが、整備が終わって約10年が経過しようとしている為、再整備の検討が必要となる。	
ハード対策																	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本県・減災に係る取組工程表全体スケジュール		令和3年1月29日更新																																																											
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考																																													
		29年度												30年度												31年度												32年度												33年度											
幹事会 (○)				○																																																									
協議会 (◎)					◎																																																								
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																																																												
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																																																												
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																																																												
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○																																																										
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○																																																										
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○																																																										
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底																																																												
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎																																																											
	ハザードマップの普及・啓発	○	○																																																										
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○																																																										
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○																																																										
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																																																												
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																																																												
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○																																																										
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○																																																										
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○																																																										
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																																																												
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																																																												
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○																																																										
	緊急排水計画の策定	○	○																																																										
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○																																																											
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																																																													
自治体の防災担当者間の連携促進	○																																																												
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																																																													
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																																																													
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																																																													
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																																																													
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																																																													
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施																																																													
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																																																													
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																																																													
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																																																													
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																																																													
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充																																																													
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																																																													
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																																																													
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																																																													
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																																																													
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																																																													
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施																																																													
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及																																																													
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																																																													
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																																																													
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																																																													
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																																																													
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進																																																													
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施																																																													
市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立																																																													
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																																																													
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○																																																											
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○																																																											
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																																																											
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																																																											
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																																																											
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																																																													
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																																																											
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施																																																													
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○																																																											
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																																																												
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																																																													
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																																																													
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																																																													
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																																																													
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																																																													
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																																																													

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本地方気象台・減災に係る取組工程表全体スケジュール		令和3年1月12日更新																	
作業項目		白川	緑川	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	33年度	備考			
				29年度			30年度			31年度			32年度						
幹事会 (○)				○			○			○			○						
協議会 (◎)						◎				◎			◎						
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																		
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																		
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																		
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○														(継続的に実施)		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○														(継続的に実施)		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○														(継続的に実施)		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成																		
	ハザードマップの普及・啓発																		
	地域版ハザードマップの普及・啓発																		
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																		
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																		
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○															(継続的に実施)	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施																	昨年度同様、協力依頼がないため取組なし	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有																		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																		
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討																		
	緊急排水計画の策定																		
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○															(継続的に実施)		
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																			
自治体の防災担当者間の連携促進																			
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																			
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																			
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																			
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																			
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																			
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村舎の機能維持及び機能向上の検討・実施																			
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																			
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																			
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																			
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																			
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○																(継続的に実施)	
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○																【白川・緑川が対象ではないが】熊本市教育センターからの依頼により、新型コロナウイルスで休校期間の小中学校向け学習支援特別テレビ授業「くまもつとまなびたいみ」へ出演	
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○																	昨年同様、協力依頼がないため取組なし(その都度、水害の歴史に関連する気象資料の提供等の協力)	
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																			
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																			
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																			
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○																(継続的に実施)	
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及																		今年度は協力依頼がないため取組なし(昨年度は、自働強化キャラバンステージイベントへ協力(10/27、11/17))	
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																			
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																			
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																			
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																			
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○																	(継続的に実施)
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○																	(継続的に実施)
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○																	(継続的に実施)
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																			
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施																			
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知																			
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																	(提供終了)
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																	(継続的に実施)
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																	(継続的に実施)
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																			
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																	(継続的に実施)
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○																	(継続的に実施)
出水時の河川巡視情報等の共有																			(継続的に実施)
関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																			
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																			
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																			
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																			
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																			
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																			
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																			

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】九州地方整備局・被災に係る取組工程表全体スケジュール		目標達成期限												令和3年1月27日更新	
作業項目		白川	緑川	8月 29年度		4月 30年度		8月 31年度		4月 32年度		8月 33年度		備考	
幹事会 (○)				○	○	○									
協議会 (◎)					◎										
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着手した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												令和2年度は実施なし
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												洪水対応演習を継続して実施
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 （広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎	◎												
	ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○												
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○												
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定														
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○												
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○												令和2年度ははコロナのため、白川・緑川ともに合同巡視の実施無し
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○												
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施														
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○												
	緊急排水計画の策定	○	○												本計画の実効性を確認するために現地訓練を実施する必要あり
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○												
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化														
	自治体の防災担当者間の連携促進	○													
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討														
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定														
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援														
	地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○												
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○												
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進														
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充														
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○												
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○												
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○												
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育														
	白川学習・水防教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進	○													
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎	◎												
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施	○	○												
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○												
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○	○												
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信														
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化														
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○	○												
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○												
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当課長等とのホットラインの確立	○	○												
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化														
	多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○												
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○												
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○												
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎												
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○												
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施														
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○												
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○												
	出水時の河川巡視情報等の共有	○	○												
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備														
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置														
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○												
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充														
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討														
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定														
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○												